

第443回鉄鋼流通問題懇談会

2018年1月24日(水) 15:00
茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟会議室」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)

2. 全鉄連情勢報告

(1) 地区の状況

○東京、大阪、愛知、岐阜地区概況報告

(2) その他地区の概況

○鉄流懇1月例会で発表の各地区業況アンケート結果

(3) 総括：阪上全鉄連会長

3. 意見交換

4. 経済産業省挨拶

5. 鉄流懇会長挨拶

6. その他

○次回以降会議予定

2018年4月 日() 14:30～

於：茅場町「

」

発表者	発表項目	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向 (景況感)	<p>メタルワン</p> <p>売戻分野については精材類を中心に需要があまりつつあり、大型案件の明確化が戻り始め、コラムや軽天向け等の明確な動きが改善しつつある。しかし、特別店取引の在庫高が大きい動き、小型の案件については引き続き好況を維持している。本家は本需期である1-3月も堅調、同分野の好調は2020年まで継続しており、一方で上げについては継続しており、ボトムから+13〜15ポイントまで伸びている。メーカからさらには更に+10ポイントの伸びを確保し、今後の水運を維持している。重要の回復が大きい、韓国からの輸入材の減少も著しいと見られる。韓国内の数量は多い時期の半分以下と見られる。価格については交渉の余地無く、メーカ一出し価格が受けられるかどうかの強い交渉の交渉となっている。</p>	<p>2017年11月末の薄板三品在庫は前月比11万2千2トン減の400万1千1トンとなり、2カ月連続の減少となった。品別別では熱延が189万3千3トン(前月比7万7千7トン減)、冷延が79万9千9トン(前月比1万1千1トン減)、表面処理鋼板が130万9千9トン(同2万5千5トン減)となった。業態別にメーカ在庫は前月比減少したが、問屋在庫、コイルセラー在庫は増加した。薄板需給は、自動車、家電、機械、工作機械等の製造業が堅調な活動水準を維持していることに加え、東京五輪関連や首都圏再開発の建材需要の本格始動が加わり、今後もタイトな状態が続く見込みとなっている。</p>	<p>・全国厚板シヤリング工業組合11月統計では、全国在庫量は392,063MTで前月比-2,200MT減、全国出荷量は173,045MTで前月比+3,363MT増、全国在庫率は226.6%前月から5.8ポイント減、関東地区207%と前月から2.5ポイント減少、溶断業の稼働率は各社により濃淡ありながらも概ね8割〜10割と推測する。</p> <p>・建築・土木関係は堅調、建機は国内排ガス後底打ち、輸出建機は好調。</p>	<p>棒鋼 マンション需要の緩やかな回復に加え、官公庁の再開発案件やオオヤマビック関連需要の受渡開始も有り、荷動きは昨年夏場以降底入れ感有り、当面、一定水準の荷動きが見込まれる。形鋼 H形鋼に関しては、本年10-12月のときわ会ペース全国在庫量は88千110トンと、前月比+4%、前年同期比▲2%との水準、12月末市中在庫は2千100トンを下回るレベルが継続しており、当面、低水準での推移が予想される。</p>
2. 需要産業動向	<p>(建築・土木) 11月の新設住宅着工数は前年同月比0.4%減の8万4703戸で9か月連続の減少となった。着工床面積は5か月連続のマイナスで1.2%減となった。内訳は住宅が4.2%減と6か月連続の減少、買家は2.9%減と6か月連続の減少、分譲住宅は8.7%増と3か月ぶりの増加、昨年同月における前年同月比は6.3%の増と増えている。しかし、動向に乏しい状況にあり、今後の動向には注目が必要。(自動車) 11月の日本メーカ車の国内生産台数は前年同月比0.5%増の80万3627台、メーカ別ではトヨタが前年同月比7.6%増の29万5631台でシェアは前年同月比0.2%減の9万3474台でシェアは11.6%、スズキは前年同月比0.2%減の8万3909台でシェアは10.4%、ダイハツは前年同月比14.8%増の7万9913台でシェアは9.9%、ホンダは前年同月比3.2%減の7万8879台でシェアは8.8%、スバルは前年同月比8.2%減の6万223台でシェアは7.5%、日産は前年同月比42.9%減の5万9227台でシェアは7.4%、三菱は前年同月比13.5%増の5万2371台でシェアは6.5%、完成検査に無資格者が携わっていた期間が覆されたこととスバルが大きく前年同月比マイナスとなった。日産は11月上旬まで全6工場生産を再開したが、ライオンや格差体制の見直しで生産スピードが計画比の4-8割に留まる。スバルは完成検査員への追加講習の為に稼働を止めたことなどが影響している。(機械) 11月の建設機械出荷額は2289億円となり、前年同月比26.6%増と13か月連続の増加、世界的に道路、空港、住宅などの建設需要が増大し、外需も増加となった。内訳は外需が57.9%増の1417億円、13か月連続の前年上振れ、内需は4.2%減の872億円で9か月連続のマイナス。外需は前年同月比76.7%増、ミニコンは前年同月比11.4%と好調、内需は非ガスマシナ強化に伴う駆け込み需要の反動が広がっている。(造船) 2017年の主要造船受注量は16年比2.5倍の195隻、945万3629総トン。国内主要造船所の年間建造能力は1200〜1300トン以下となるもの、回復兆しが見えてきている。造船各社は2020年に世界全産能で強化される排ガスへの産廃廃棄物削減に向けて奮起しており、造船工業会も18年度中には50%対応の船舶の受注が出てくることを見込んでおり、造船技術に強い日本の造船会社に発注が集まることか期待される。一方で、船体対応の機器、設備の追加コストを船舶に譲り込めることが課題となっており、収益改善はまだ不透明なように見受けられる。</p>	<p>10月の自動車(四輪車)の国内生産台数は、前年同月比6.4%増の83万1千台となり12か月連続で前年同月を上回った。11月の民生用電気機器の国内出荷金額は、1,634億円となり、前年同月比88.9%と2か月連続のマイナスとなった。洗濯機、冷蔵庫、ルーフマイナースとなった。マイナースの累計で見ると民生用電気機器全体では前年同月比101.8%となり、安定した買替需要に支えられ、前年を上回る水準で推移している。</p> <p>10月の新設住宅着工戸数は前年同月比4.8%減の8万3,057戸となり4か月連続の減少となった。季節調整済み年率換算値は2.0%減の93万3,000戸となった。利用関係別戸数で前年同月比プラスになったのは分譲住宅のみ。</p>	<p>・11月末輸出船手持工事量は2,740万GTで前月比横ばい。</p> <p>・11月建設機械出荷金額は872億(前年同月比4.2%減)外需が1,417億(同+57.9%増)。計2,289億で、前年同月比26.6%増加。建機は国内調整、輸出好調。</p> <p>・11月産業機械受注金額は内需が3,156億(前年同月比106.0%)外需が1,343億(同96.3%)。計4,500億で前年同月102.9%の増加。鉱山機械化学機械、圧縮機、金属加工機が好調。</p> <p>・11月建築着工床面積(民間非居住)は1,159万㎡で前年同月比+2.3%増加。前月に比べ、事務所、工場は3カ月以上連続増加。店舗は4か月ぶりの増加。倉庫は増加から一転減少。</p> <p>・11月新設住宅着工戸数84,703戸で前年同月-0.4%。5か月連続の減少。年率換算では95.1万戸(減少から一転増加)</p> <p>・民間非居住、住宅とも統計上は11月も改善見られず。本格化は4Qから。</p>	<p>棒鋼 不動産経済研究所による首都圏マンション発売戸数に関する、2017年は36千戸と前年比微増、2018年は38千戸と2017年比+4%の水準にての推移が見込まれる。</p> <p>形鋼 土木に関し、今年度並びに2018年度の需要水準は2016年度と同レベルを見込む。</p> <p>建築に関し、2017年度の鉄骨需要量(推定)は520万トンレベルと前年度比横這から微増にて推移の見通しにて、2018年度も同等以上の需要水準が見込まれるが、今夏以降FABの活動水準の本格化が予想される。</p>
3. 輸出入動向	<p>2017年11月度鋼管輸出入</p> <p>継目無鋼管: 2万1,016トン (前月比▲7.4%) 溶接鋼管: 5万8,866トン (前月比+44.1%)</p> <p>2017年11月度鋼管輸入量</p> <p>継目無鋼管: 1,606トン (前月比+33.1%) 溶接鋼管: 1万3,557トン (前月比+14.5%)</p>	<p>11月の鋼材輸入(普通鋼、ステンレス鋼、その他合鋼の合計)は、前年同月比4.0%減の47万1千1トンとなり、4ヶ月連続で減少した。(前月比では11.9%増と2か月連続の増)。中国政府の諸政策により、中国の輸出余力がない状態が続いており、東アジアの相場が安定していることが背景にあると思われる。仕入国別では、中国が前年同月比23.7%減で4か月連続の減少、台湾が同16.0%減と3か月ぶりに減少。韓国は4.6%増と4か月ぶりに増加した。</p>	<p>・通関統計、厚板輸出9月18.4万MT、10月18.2万MT、11月22.4万MTと増加傾向。</p> <p>・輸入9月4.7万MT、10月5.4万MT、11月5.5万MT。通常レベルの5万MT台維持。</p> <p>・中国からのクロム含有厚板輸入は9月5000MT、10月1000MT、11月500MTと低レベル。</p> <p>・中国内需好調かつ原料コストアップにより輸出価格は上昇。よって日韓への輸出減少。</p>	<p>2017年度4-11月の小形棒鋼輸出量は26千トン/月と2016年度同期比▲4千トン/月のレベルで推移。</p> <p>2017年度4-11月のH形鋼輸出量は18千トン/月と2016年度同期比▲4千トン/月、輸入量は7千トン/月と同比+3千トン/月のレベルで推移。</p>
4. 海外市場動向	<p>＜油井管＞17年は原油価格(WTI)が\$50/バレル前後から\$60/バレルに安定的に上昇した年となったOPECの減産対応も考慮すると18年WTI平均\$55-60/バレル前後で安定期に推移すると推察、相場が安定して推移していることから引き続き北米、中東、欧州を中心に油井管需要は回復していく。また、北東アジア向けには今年も堅調に推移しており、他の地域(東南アジア、CIS、アフリカ)がどの程度回復して来るのか注視。</p> <p>＜ラインパイプ＞受注済案件にて一部は欧州、日本ミル等のTier 1ミルのキャパは未だタイトな状態で、18年後半までは新規の大型案件は少ないものの、19年以降の案件は動き始めている。中東地域は比較的堅調、インドや北米市場での需要はあるものの通商問題や国内ミルとの競合もあり日本からの輸出としての期待は薄い。</p>	<p>中国の鉄鋼需要産業動向は、11月の自動車生産台数が前年同月比1.8%増の311万台と300万台を上回った。17年度の新車販売台数は前年比3.0%増の2,888万台と過去最高となった。12月の粗鋼生産量は前年同月比1.8%増の6,705万トンと前年同月比では22か月連続で前年を上回ったものの、日産量は前年同月比4か月連続減少した。12月の鋼材輸出は前年同月比27.3%減の567万トン(速報値)となり17か月連続のマイナスとなった。</p>	<p>・韓国造船に回復の兆し有り。韓国メーカへの定修、中国からの輸入材への対抗も強化されており、一定期間は韓国メーカがターゲットになる見通し。</p> <p>・中国国内は冬場に入り東北地区の需要が若干減退。国内厚板価格は17年の年末時点から比較するとRMB3000/-mt程度下がっている。</p> <p>一部中国メーカは輸出マーケットにおいて価格を下げてオファー開始。</p> <p>・18年の海外建機は17年から横ばいの見通し。</p>	<p>アジア: 中国、ASEAN 地域を含め全体的に堅調な経済環境を背景としてインフラ関連中心に建材需要は堅調に推移している。中国における地条鋼の廃止、或いは環境問題を背景とした減産継続により、昨年夏、アジア地域の鋼材市場は好転しているが、3月中旬に予定される中国の減産解除の影響については注視が必要。</p> <p>北米: 経済全般は堅調な推移にて、現政権の経済政策を背景としたインフラ或いは設備投資計画は今年も見込まれ、堅調な需要推移が期待できる。但し、足元は依然におけるAD発動等、日本からの輸出商談は影響を受けている。</p>
5. トピックス				

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・日本経済は緩やかな回復基調が続いている。雇用環境の改善により、低調だった消費も足元では前年比増加に転じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄工業生産においては、基調判断が17年10月の「持ち直しの動き」から11月には「持ち直している」と上方修正されていることから、回復傾向が強まっていることが窺える。 ・12月の日銀短観は、国内外の堅調な需要を背景に大企業製造業の景況感が5四半期連続で改善し、11年振りの高水準となった。 ・製造業部門は機械生産を中心とした回復が継続している。建設部門も設備投資の回復基調に加え、昨年未開議決定された補正予算を背景に、18年の鉄鋼需要も環境は良好と見込まれる。 <p>（海外）・米国は雇用情勢の安定、力強い消費を背景に堅調を維持しており、欧州も外需に支えられ景気回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国は各種政策効果もあり、景気は底堅く推移しており、ASEAN諸国も総じて持ち直しの動きを見せている。 ・北朝鮮や中東地域で地政学的リスクが懸念されるものの、中国ミルによる過剰生産能力削減や地条鋼ミルの撲滅等を背景に、市況の回復傾向は継続し、18年の鉄鋼需要は総じて堅調に推移する見通し。 <p><国内鉄鋼需給></p> <ul style="list-style-type: none"> （生産）・12月の粗鋼生産は872万トン（前年同月比+0%）。17年暦年では1億466万トン（同▲0%）、3年連続の減少。 （出荷）・11月普通鋼国内向け出荷は409万トン（前年同月比+2%）で2ヶ月振りに増加。一方、輸出向け出荷は203万トン（同▲4%）と13ヶ月連続で減少。 （在庫）・11月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は566万トン（前月比▽17万トン）、4ヶ月振りに減少。 ・11月末の薄板3品在庫は400万トン（同▽11万トン）、お盆影響で前月比増も、増加幅は例年並み。 ・11月末の厚板シャヤー在庫は39万トン（同▽0万トン）。2ヶ月振りに前月比減少。
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・11月の新設住宅着工戸数は8.5万戸（前年同月比▲0%）で5ヶ月連続の減少。分譲は増加も、持家・貸家減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は446万㎡（同+6%）で3ヶ月連続の増加。鉱工業用、商業・サービス用で前年増加。 <p>〔自動車〕・12月の国内販売は35.9万台（前年同月比+4%）で3ヶ月連続の減少。17年暦年では488万台（同+6%）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の完成車輸出は43.8万台（同+10%）で3ヶ月振りの増加。北米向けは微減も、アジア向けは堅調。 ・11月の四輪生産は84.8万台（同+1%）で13ヶ月連続の増加。 <p>〔造船〕・12月の受注は51万GT（前年同期比+6%）、17年暦年では945万GTと前年比2.5倍まで回復。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・11月の全鉄鋼輸出は319万トン（前年同月比▲2%）で10ヶ月連続の減少。韓国、米国向けで減少継続。</p> <p>〔輸入〕・11月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は47万トン（前年同月比▲4%）で4ヶ月連続減少。</p> <p>中国が4ヶ月連続減少（同▲24%）、台湾が3ヶ月振りに減少（同▲16%）も、韓国は4ヶ月振りに増加（+5%）。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の世界粗鋼生産は、中国やインド、EU、米国等で前年同月比増加、1億3,628万トン（前年同月比+4%）となった。 ・1-11月では15億3,601万トン（同+5%） ・12月の中国粗鋼生産は6,705万トン（前年同月比+2%）と、冬季減産が本格化。17年暦年では8億3,173万トン（同+6%）で、3年振りに過去最高を更新。中国内需好調、違法鋼材「地条鋼」の排除により、正規の鉄鋼メーカーの生産が押し上げられた格好。 ・12月の中国鋼材輸出は567万トン（前年同月比▲27%）、17ヶ月連続で前年同月比減。国内販売重視、輸出は低水準で推移継続。 ・17年暦年では7,561万トン（同▲31%）、3年振りの1億トン割れ。